

Lesson
1

そもそも「経営分析」とは どんなものかを押さえておこう！



B/S・S・P/Lから 会社の状態を考える

経理の仕事の一つに、会社の日々の取引を伝票にして、会計ソフトの入力をするがあります。会計ソフトでは、その入力をした取引をもとに貸借対照表・損益計算書はもちろんのこと、設定次第でキャッシュフロー計算書も作成できますよね。

さて、経理ご担当者の皆さんは、この貸借対照表・損益計算書を作成した後、どのように数字の確認をしているのでしょうか。

日々の業務に追われて余裕がなく、

十分に数字を把握できていないという方もいれば、社長や役員に報告する直前に確認するという人もいるかもしれません。あるいは、すでに経営分析の指標を使用しながら数字を把握しています、という人もいるかもしれませんね。

本稿のテーマは「経営分析」です。経営分析は、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書などを用いて行なうものです。中小企業であれば、経理の皆さんが作成をした貸借対照表・損益計算書をもとに行なうことになりま。

経営分析というと、仰々しい感じがしますが、ここでは、経営分析をしたことがない方や経営指標に慣れていな

い方でも、「そういう見方があるのか！」と感じてもらえる内容を目指しています。

ところで、そもそも経営分析とは、何をするのでしょうか？ 経営分析には、いろいろな定義の仕方がありますが、本稿では、「会社の貸借対照表・損益計算書の数字から、今、会社がどのような状態であるかを考えること」を指します。

具体的には、会社にどのくらい売上があるのか、その売上は前年と比べて増加しているのか、利益は増えているのか減少しているのかを確認します。さらに、増加しているのであれば、なぜ増加しているのかを考えていくことを想定しています。